

# 1. 十二正経

## 1 手の太陰肺経絡系統

### 概要

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| 1. 経穴数：11        | 9. 五腧穴：(a) 井穴：少商 |
| 2. 気血：多気少血       | (b) 榮穴：魚際        |
| 3. 走行：胸から手に走る    | (c) 腧穴：太淵        |
| 4. 時刻：午前3～5時（寅時） | (d) 原穴：太淵        |
| 5. 起始穴：中府        | (e) 経穴：経渠        |
| 6. 終止穴：少商        | (f) 合穴：尺沢        |
| 7. 絡穴：列欠         | 10. 背腧穴：肺腧       |
| 8. 郄穴：孔最         | 11. 募穴：中府        |

## 1 手の太陰肺経絡系統の循行分布

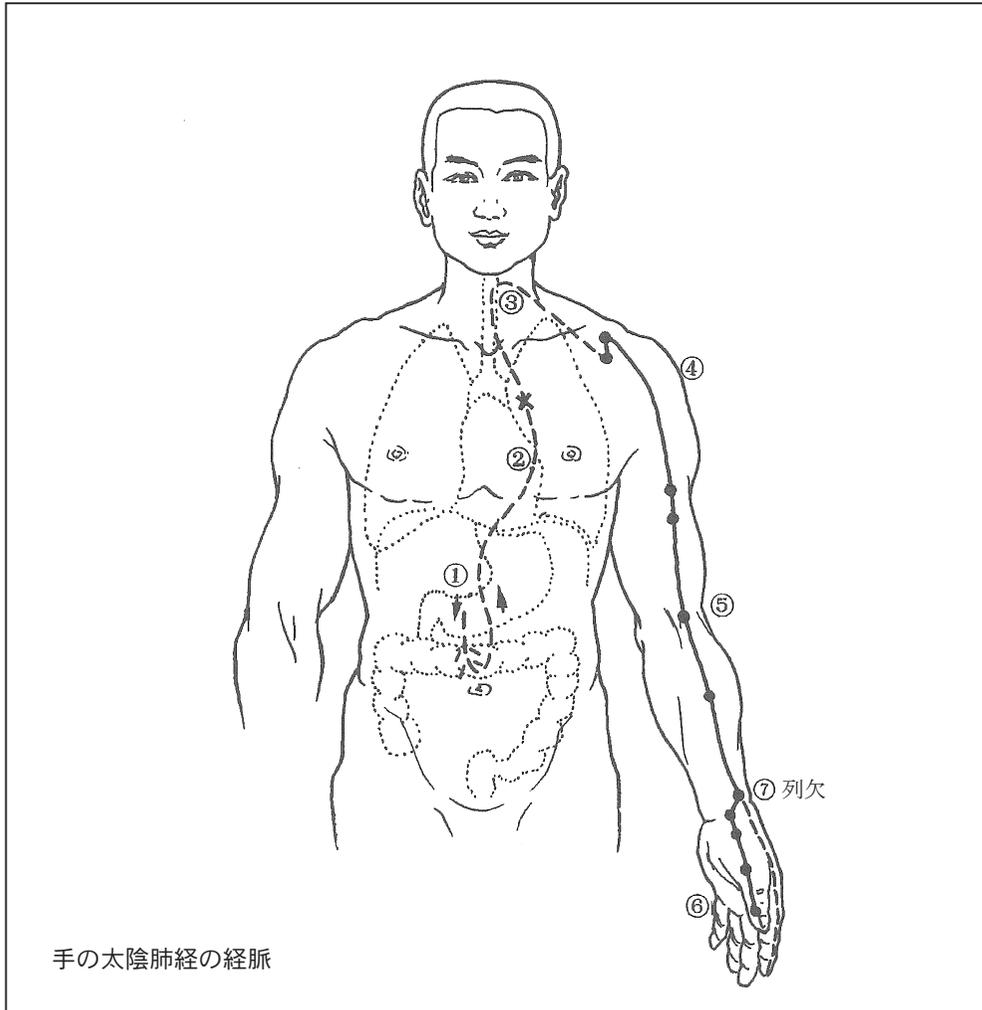
### 【1】経脈の循行

【原文】 『靈枢』経脈篇

「肺の手太陰の脈は、中焦に起こり、下って大腸を絡い、還って胃口に循って、膈に上り、肺に属す。肺系より横して腋下に出で、下って膈内に循って、少陰、心主の前に行き、肘中を下って、臂内上骨の下廉に循って、寸口に入る。魚を上り、魚際に循って、大指の端に出ず。その支なるものは、腕後より直に次指の内廉に出で、その端に出ず。」

【語釈】

①中焦に起こり、下に向かって大腸に連絡する。②返ってきて胃の上口に沿って上に向かい横隔を貫き、肺臓に属す。③肺系…気管・喉から横行して浅く出て（中府、雲門）、腋下に至り、④下に向かい上臂内側に沿って、手少陰・手厥陰経の前に行き（天府、侠白）、⑤下に向かい肘窩の中（尺沢）に至り、前臂内面の橈側に沿って腕の橈骨茎状突起の内側縁に至り、⑥寸口に入り、大魚際部に向かって走り、魚際の辺縁に沿って、拇指の橈側端（少商）に至る。⑦その支脈は、腕後（列欠）からまっすぐ走って示指の橈側に向かい、その末端に出て、手の陽明大腸経と接続する。



## 【2】絡脈の循行

[原文] 『靈枢』経脈篇

「手の太陰の別、名づけて列缺という。腕上の分間に起こり、太陰の経に並んで、直に掌中に入り、散じて魚際に入る。……これを腕を去ること半寸に取る、別れて陽明に走るなり。」

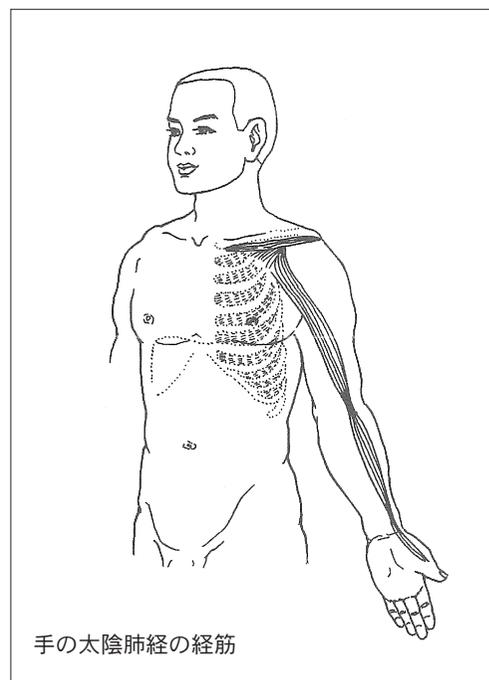
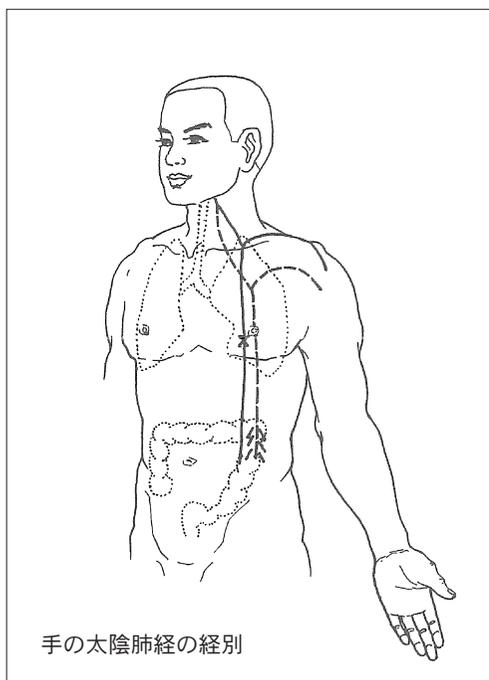
[語釈]

手の太陰の絡脈は、名を列欠という。手腕の上方で橈骨茎状突起部の分肉の間より起こり、手の太陰肺経脈と並んで行き、まっすぐに掌中に入り、大魚際部に散布する。腕後の1寸半の処で分かれ出て、手の陽明経脈に向かって走る。

## 【3】経別の循行

[原文] 『靈枢』経別篇

「手の太陰の正は、別れて淵腋少陰の前に入り、入りて肺に走り、散じて大腸に之き、上っ



て缺盆に出で、喉嚨に循って、また陽明に合す、これ六合なり。」

**【語釈】**

手の太陰経別は、本経の腋下3寸の部位（天府）から分かれ出て、腋部を経て手の少陰経別の前に行り、内に向かい肺部に入り、下って行き大腸に散布する。その分支は上に向かい缺盆部に入り、喉嚨に沿って、再び手の陽明経脈と会合する。

**【4】経筋の循行**

**【原文】** 『靈枢』経筋篇

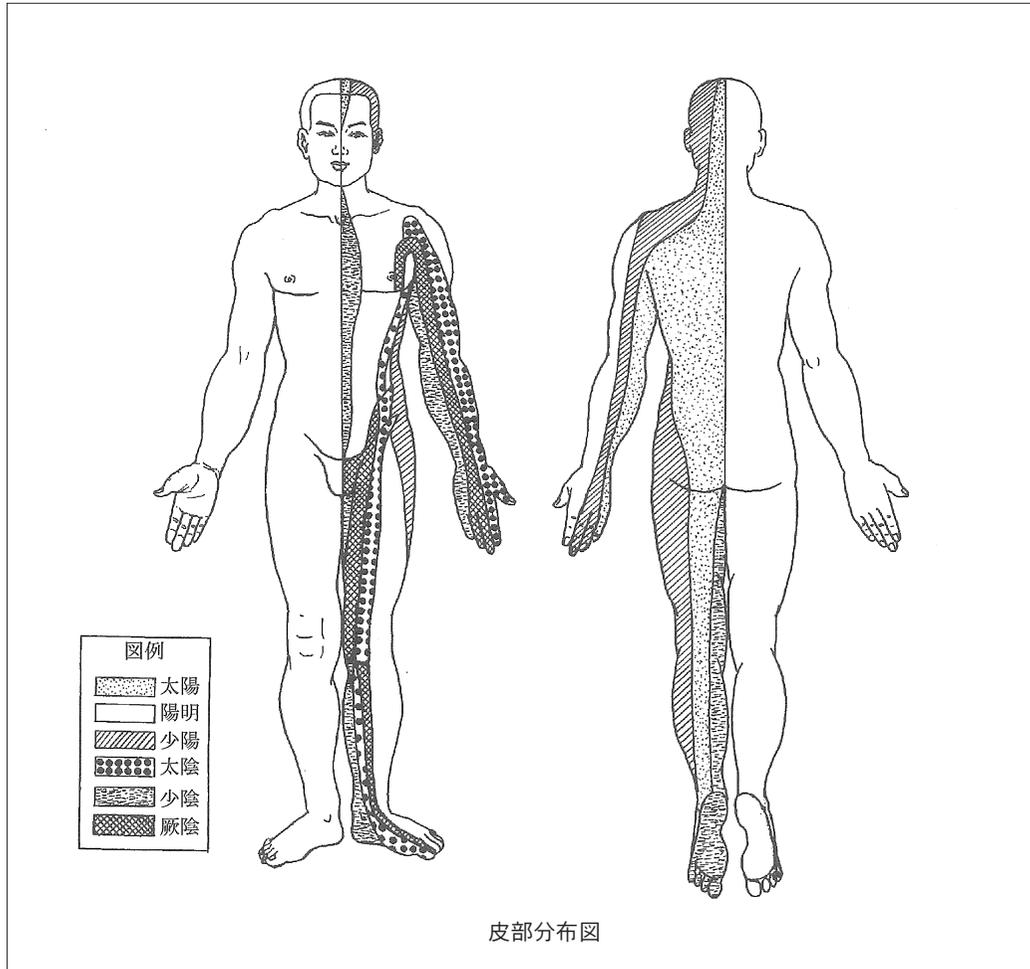
「手の太陰の筋は、大指の上から起こり、指に循って上行し、魚後に結す。寸口の外側を行き、臂に循って上り、肘中に結し、臑の内廉を上り、腋下に入り、缺盆に出で、肩の前髀に結す。上って缺盆に結し、下って胸裏に結し、散じて賁を貫き、賁下に合し、季脇に抵る。」

**【語釈】**

手の太陰経筋は、手の拇指の上から起こり、拇指に沿って上に向かい、魚際の後ろに結している。寸口の外側を行き、前臂に沿って上に向かい、肘窩の中に結す。上臂の内側前縁に沿って上に向かい、腋下に入り、缺盆部に出て、肩髀の前方に結し、上に向かい缺盆に結し、下に向かい胸裏に結し、分散して膈部を通過し、並んで膈下で会合し、季脇部に至る。

**【5】皮部の分布**

手の太陰肺経絡の皮部の範囲は、本経の経脈と絡脈の循行している区域にもとづき、主として上肢内面の橈側と拇指・示指の掌面および橈側に分布している。



## 2 手の太陰肺経絡系統の病候

### 【1】経脈病候

【原文】 『靈枢』経脈篇

「是れ動ずるときは則ち病む。肺脹満し、膨膨として喘咳し、缺盆の中痛む。甚だしきときは、両手を交して瞽す。これを臂厥という。是れ主肺、生ずる所の病なり。咳し、上気し、喘し渴し、煩心し、胸満し、臑臂の内前廉痛み、厥し、掌中熱す。気盛んにして有余なるときは、則ち肩背痛み、風寒し汗出でて風に中れば、小便数して欠す。気虚なるときは則ち肩背痛み、寒し、少気以て息するに足らず、溺色変ず。」

【語釈】

本経に異常が発生すると、次のような病症が出現する。肺部長満し、膨膨として気喘し、咳嗽し、缺盆（鎖骨上窩）の中が痛む。ひどい場合には、ひどい咳嗽により両手を交叉させて胸部をおおい、物がはっきり見えなくなる。さらに本経脈が循環している前臂部（前腕部）に厥冷・疼痛などの症状が起こる。

本経脈の経穴は、肺の関連病症を主治することができる。例えば、肺気上逆による咳嗽・呼吸が荒くなりせかせかと喘するもの・心煩不安・胸部満悶、および上臂（上腕）と前臂（前腕）内側前縁の疼痛あるいは厥冷、あるいは掌心発熱を主治することができる。

本経脈が気盛んにして有余であると、肩背部の疼痛が起こる。本経脈が風寒を感受すると、自汗が出る中風証で、あるいは小便の回数は増加するが量が少ないという症状が起こる。本経脈が気虚して不足であると、肩背部の疼痛・寒がり・呼吸微弱・息切れ・小便の色の変化などの症状が起こる。

## 【2】絡脈病候

【原文】 『靈枢』経脈篇

「その病、実するときは則ち手の鋭掌熱す。虚するときは則ち欠故し、小便遺数す。」

【語釈】

本絡脈に病変が発生し、邪気により実しているときは、手掌の腕部に近い部位（魚際後方）が発熱する。正気が虚しているときは、あくびが出たり、遺尿したり、頻尿となる。

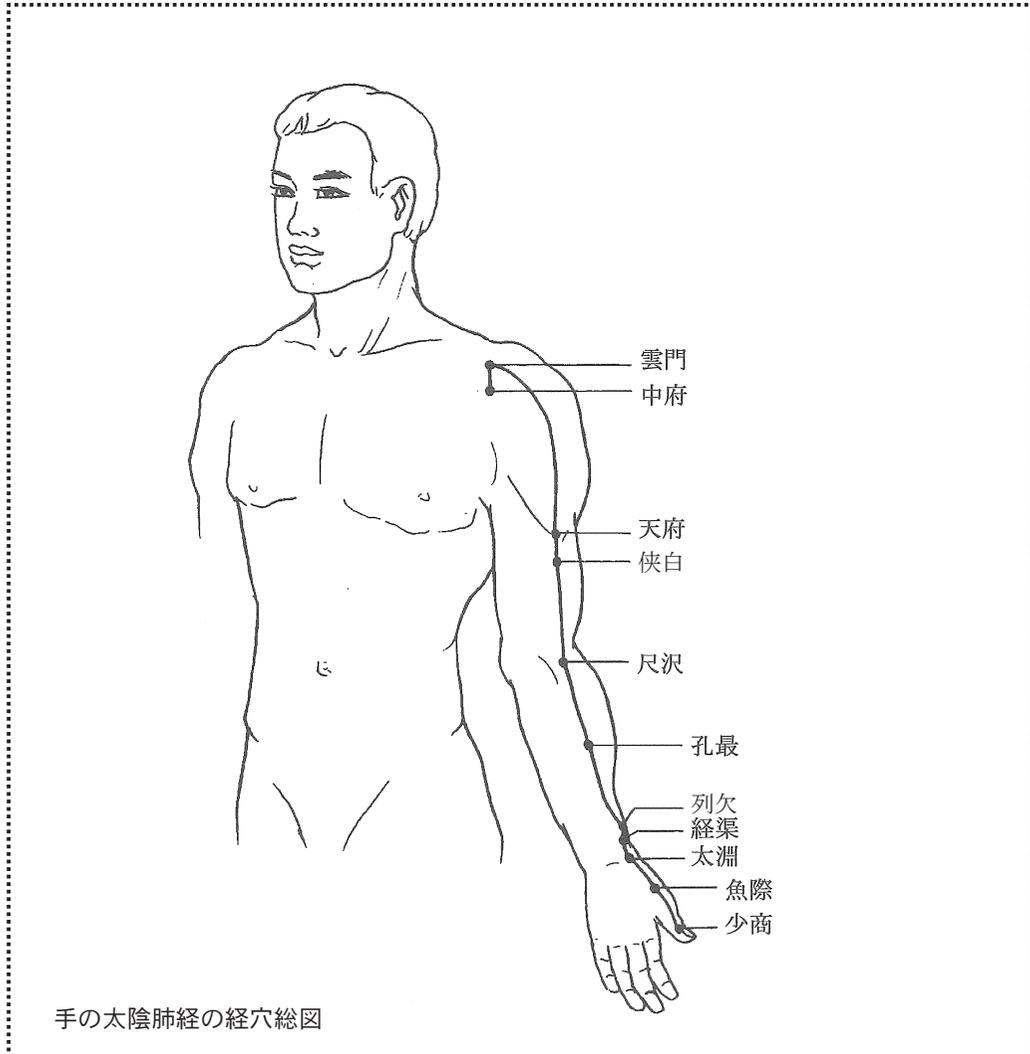
## 【3】経筋病候

【原文】 『靈枢』経筋篇

「その病、過ぐる所に当る者は支し転筋し、痛み、甚だしきは息責を成し、脇急し吐血す。」

【語釈】

手の太陰経筋の病は、その循行経過する部位に、つっぱり・転筋が起こり、痛みがひどい場合には息責病となり、脇部が拘急し、気が上逆して吐血することがある。



本経穴

穴名	特定穴	日本語音	中国語音	国際記号
中府	肺の募穴	ちゅうふ	Zhong fu	LU1
雲門		うんもん	Yun men	LU2
天府		てんぷ	Tian fu	LU3
俠白		きょうはく	Xia bai	LU4
尺沢	合穴 (水)	しゃくたく	Chi ze	LU5
孔最	郄穴	こうさい	Kong zui	LU6
列欠	絡穴, 八脈交会穴 (任脈に通じる)	れっけつ	Lie que	LU7
経渠	経穴 (金)	けいきよ	Jing qu	LU8
太淵	兪穴 (土), 原穴, 脈会	たいえん	Tai yuan	LU9
魚際	榮穴 (火)	ぎよさい	Yu ji	LU10
少商	井穴 (木)	しょうしょう	Shao shang	LU11